

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の1時30分になりましたので、平成23年、年明けの1月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、最初に事業発表項目についてお願いしたいと思っております。発表項目に係る質疑終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したく思っております。

終了は14時30分を予定いたしておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 新年明けましておめでとうございます。

記者クラブの皆さん方には、いいお正月を迎えられたのではないかなというふうに思っておりますが、なかなか皆さん方の仕事柄、盆、正月がないということで、休みも余りたらずに頑張っておられたんじゃないかなというふうに存じます。

おかげさまで雪のほうも大変心配されたところでございますが、大みそかに少し降りまして、お正月、私どもしっかり朝から活動しなくてはならないものでちょっと不安もありましたが、刀根、杉箸のほうまでも行けましたし、その後、お天気もよくなって道もすっきりあいております。そういう観点で、私は比較的好いお正月を迎えられたのではないかなというふうに思っているところでございます。

今年1年、いろんな大変な年ではございますけれども、健康に気をつけながら頑張っていきたいなというふうに新年のお参りもしてきたところでございますが、この1年間、4月以降ひよっとするとお目にかかれないうちかもしれませんけれども、また皆さん方の前にお目にかかれるように努力をしていきたい、このようにも思っているところでございます。

今年1年間、また大変お世話になることがたくさんあるというふうに存じますけれども、よろしくお願ひ申し上げます。

まず、発表項目であります。

1番目、台州市の友好親善使節団の受け入れでありまして、当初、昨年のお秋ごろにということ聞いておりましたけれども、非常に中国との国際関係、尖閣諸島問題などがございまして、台州のほうからしばらく延期をしたいということの申し入れをいただいておりますけれども、ようやく落ちついたようでありまして、この1月13日から14日、台州市の副市長をはじめ全部で5名の皆さん方が友好親善使節団ということで敦賀にお越しになる予定でございまして、今お手元にお配りした資料のとおり日程で行いたいというふうに思っております。

次は、成人式であります。これは恒例でありますけれども、成人の皆さん方をお祝いする会であります。今年は昨年と比べますと46人の減ということでございます。一番多いときには、平成18年には101人の減ということもございましたけれども、21年、22年というのは少し増えておりましたが、今年はまた減ったということであります。私も昭和26年生まれのうちうさぎ年でありまして、今年10月になりますと満60歳を迎えるわけでありまして、何か全国的に見ても、うさぎ年は少ないということも聞いておまして、それはどういふ原因かは私にはわかりませんが、そういうことも影響して少し減ったのではないかなというふうに思っているところでございます。比較的、敦賀市の成人式というのは本当にみんな静かで、おとなしいいい子ですので、皆さん方が変な言い方ですと期待するようなことはまずないというふうに思ひまして、肅々といい成人式ができるんじゃないかなというふうに思っているところであります。

次に、消防の出初め式でございますけれども、これは1月10日に恒例でありますけれども開催をいたします。何とかお天気のほうがよろしいですと、相生町の通りで観閲式、また出初めのはしご乗り等々を行う予定でございまして、荒天になった場合は、きらめきみなと館のイベントホールを使って行いたいと思ひます。特に、このはしご乗りを導入してから数年たちましたけれども、昨年の暮れもそれぞれの消防の分団というのがありますけれども、そこに歳末警戒ということで団員の皆さん方、また防犯隊員の皆さん方が出て激励に回っているんですけども、やはりこのはしご乗りを導入してから若い人が消防団が増えてきたなということを実感しておりますし、今度、条例改正をしまして女子の消防団員も入れるということに消防議会で条例改正がなりましたので、将来、女性のはしご

乗りの人も出るんじゃないかなというふうに期待をしております。男女共同参画社会に一歩でも近づくように、これからも努力していきたいというふうに思っているところであります。

次に、文化財を守る火災の防ぎょ訓練ということでございまして、ご承知の文化財防火デーが1月26日でございますけれども、それに先立ちまして、1月23日に今回は天満神社、栄新町でございますけれども、天満神社で訓練を行いたいと思います。文化財は非常に大事なものでありまして、燃えてしまいますとそれっきりなくなってしまうので、しっかりと守っていききたい、このように思っているところでございます。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました4項目につきまして質問を受けたと思います。

最初に幹事社からお願いします。

【記者】 台州市の訪問が延びたことについて、もう少し詳しくご説明いただきたいんですが、まず、そもそもいつ予定されていて、当時何があって、どちらのほうからどういう申し出があって延期になったのか。今回、復活したというか、来ることになった理由というのをちょっと教えてもらえますか。

【産業経済部長】 当初、来る予定は昨年10月13日に訪問をされる予定でございました。先ほど市長からもお話がありましたいろんな事情もあるかと思っておりますけれども、一番大きな理由は、台州市の幹部の皆さんの改選、選挙があったということで、動けないという状況があるということで、台州市のほうから私どものほうに連絡をいただいて、延期をさせてほしいという申し出をいただきました。その後、日程調整等をやらせていただいたわけですが、今回、1月13、14日に来られるということでの連絡がございましたので、発表させていただいたところでございます。

【記者】 それは市長が先ほどご説明された尖閣の影響というのもあったというのは向こうが言っていることなんですかね。それとも向こうは言っていないけれども、こちらとしてある程度そういうところもあるんだろうなということが推測できるということなんですか。

【産業経済部長】 そのとおりでございます。

【市長】 こういうことはしばしばありまして、韓国の姉妹都市などもつき合いをさあ行き来しようというときに例の竹島の問題が出まして、そうなるとなかなか。中国などは体制がやはりまた日本と違いますので、政府の言うことについてはやはり地方といえども、そういうことはしっかり守られているのではないかなというような気がしますから。向こうの方は先ほど言いましたようにそれが原因でとは決して言いませんが、そういうふうに想像がされております。過去の例から見まして、そういう感じがします。

【記者】 成人式のことですが、先ほど敦賀はおとなしいというふうにおっしゃられました。とはいえ去年、福井市では逮捕者が出たように、その年々によってどうなるかわからないとは思いますが、敦賀市さんとしては、この成人式に向けて、万が一のときのために警備体制というか、警察との連携であるとか自主警備とか、そういうものの体制はどうなっているのかというのが一つと、それから、先ほど成人の数のお話が出ました。最も多いときの年次と、それから人数を教えてくださいませんか。2点、お願いいたします。

【市長】 過去の敦賀市の例で、確かに昔ですと一升瓶を持って騒いだという子はおりましたけれども、それで静かになると言えば皆さん静かにしてくれましたので、過去にそんな大それたことがないものですから、警察がそこを巡回してということは今のところは予定していません。

一番成人の多いときですね。平成18年からの分ですと、平成18年が731人、19年が770人、20年が708人、21年が713人、22年が730人で、今年が684人。ここ6年はこのような状況なんですけれども、昔はどんなやつたか。

実際、私どもが学生の頃ですと、今の要するに団塊の世代からちょっと前というのは一番多かったと思います。ただ、ちょっと今そのデータがないものですから。

【記者】 手元になれば、またそれぞれの社がまたお聞きするかもしれません。よかったら教えてください。

【市長】 了解しました。

【広報広聴課長】 それでは、各社質問がありましたら発表事項について承りたいと思います。各社いかがでしょうか。

【記者】 台州市なんですけれども、日程的には当初でしたら10月13日に予定した行事内容と今回のものは全く一緒なんでしょうか。

【産業経済部長】 日本での行動と申しますか、敦賀市での予定は一緒でございます。

【記者】 ということは、何か短縮された部分がほかのところであるかもしれないということですか。敦賀市の部分では、13から14、2日いて、それが前回も2日間滞在予定ということですね。

【産業経済部長】 そうです。今回はアメリカのほうにいらっしゃって、それから東京に入られて敦賀のほうにおいでになるというふうに聞いておりますが、敦賀以外の予定につきましては私どもは把握してございませんので、よろしくお願ひします。

【市長】 敦賀だけ来てということは余りないですね。敦賀も行って、ほかの外国に行く場合もありますし、ほかの都市へ行く場合もありますので。ただ、私どもは敦賀のことしか知らないということです。

【記者】 先ほどの成人式、もう一度確認も含めてなんですけれども、700人切ったというのは初めてということでしょうか。

【市長】 18年以前ですと、あったような記憶があります。私が市長になりましたから16年たつ中で、600人台というのはあったような記憶がありますので、初めて600人台になったということはないと思います。

また、後からさかのぼって、データお持ちします。

【広報広聴課長】 ほかにございますか。

ないようですので、次に次第の3番目にいきたいと思います。フリーの質疑応答です。これも幹事社からお願いします。

【記者】 もんじゅについてですけれども、まず県知事が安全確認を厳しくやるということをおっしゃっていますが、まず、市長、これについてはどうお感じになっておりますか。

【市長】 安全確認をしっかりとやるということは非常に大事なことでありますので、しっかりと県の立場で、また私どもも安全確認については行っていきたいなと思います。

【記者】 それに関連して、僕も安全確認をしっかりとやるのは非常に大事なことだと思うんですけれども、要は新幹線の見送り、これを受けての会見というところで、もんじゅの安全確認も厳しくやらなければいけないと。そういう発言でして、いわゆる新幹線が来なかったから安全性を厳しくするというのは、それはかなり本末転倒ではないのかなという僕は印象を受けたんですが、はっきり言って、ここまで露骨にもんじゅカードを切ってきたケースというのはなかなかないようにちょっと記憶しているんですけれども、新幹線の認可の見送りともんじゅの安全確認というのが絡んでいるということ、そこも含めて、市長はどうお感じになっておりますか。

【市長】 これはもう何度も言っておりますけれども、新幹線ともんじゅというのは全く別物だというふうに私は今も思っておりますし、もんじゅがあろうが、原子力発電所があろうがなかろうが新幹線は必要な一つのツールでありますので、これはまた引き続いて、政府のほうも調整役を設けてというようなことでの話でありますから、それはそれとしてやっていただきたいですし、もんじゅの安全確認というのは当然常々やっていかなくてはなりませんので、新幹線がどうのこうので安全性を確認するというのはちょっと変かなと。例えば、仮に認めないとか、認めると申しますと、またちょっと意味は通じるんですけれども、そのあたり、知事もいろんなことを考えられて発言に苦慮されているのではないかなというふうに察するところであります。

【記者】 仮定の話ですけれども、仮に新幹線が、もんじゅの40%の再起動は一応来年度中ということになっておりますので、来年3月までということに予定しているんですけれども、仮に新幹線がそれまでに認可が出た場合に、安全性の確認というのはどうなるのか。あるいは新幹線が来なかった場合にどうなるのか。そこら辺で何か新幹線の動向によって、安全確認の厳しさというのが変化すると思いませんか。

【市長】 私は、それはしてはならないというふうに思います。安全確認はとにかくしっかりと安全性を確認することイコール敦賀市民の安心、安全につながることでありますので、これはどういう立場であれしっかりとやるべきことだというふうに思いますし、だから私の立場は、何度も言いますけれども、別問題でありますので、そのあたりは全く、新幹線

がどうだからもんじゅがどうのということは全く考えておりません。今後とも新幹線は新幹線として大事な問題、そしてもんじゅの安全性を確認し、そしてまた40%出力に向かって原子力研究開発機構がしっかりと頑張っていくということも大事だというふうに思っています。

【記者】 年頭ということでありまして、先ほど市長、春からはここにはいらっしやらないかというようなこともおっしゃられましたけれども、それはともかく置いておいて、今年1年の敦賀の課題を3つ挙げていただくとすると何になりましょうか。

【市長】 3つですか。まず、3つに絞るとするのは、ちょっと今たくさんいろいろあるので難しいんですけども、やはり港の特に拠点港に向けての取り組みですね。これを何としてでも努力していきたいという港。

それと、やはり原子力というのは、先ほど言いました安心、安全というのが第一でありますので、今後もそういうものをしっかりと見守っていく、また見きわめていく、このことでもあります。それと港のほうに、これはまだ3つ目に入りませんが、港の活用の中で、やはり物流のみならず人流といいますかそういうものの交流を目指す。今ちょうどムゼウム等に取り組んでおります。特にイスラエルの皆さん方との交流がちょうど観光団もお見えになってスタートしましたので、それを何とかいい形に持っていける年にしたいなというふうに思います。

3つ目といいますと、駅周辺になりますね。駅周辺が連携大学の建設に入っていますし、仮駅舎もできましたので、駅のことをしっかりと取り組んで、いい中心市街地の弾みもつきたいなというふうに思っております。また、観光的にも何とか前回のマニフェストの200万人ぐらい何とか突破できそうなので、今度はそれを少しレベルアップをして、これはまた4月にお話することになるというふうに思いますけれども、観光客の増なども狙っていききたいなというふうに思っております。

3つに絞れというのは非常に難しいなと思っておりますので、また後日になるかもしれませんが、そういう抱負などを具体的にまた書いたものでお示ししたいなというふうに思います。

【記者】 今、課題の中では特に挙げられてはいませんが、舞鶴若狭自動車道の開通が4年後に控える状況になってきたかと思うんですけども、そちらのほうの取り組みをまたさらに進めていかなければいけないかなど。敦賀は特に通過点になる可能性が高いと思いますけれども、その辺については、市長ご自身のお考えあればお伺いできますか。

【市長】 舞鶴若狭自動車道は確実に平成26年には開通いたします。一つの大きな課題なんですけれども、これは確かに交通の便がよくなると、逆に通過点になるという例が全国にありますので、やはりしっかりした受け皿、やはり敦賀におりてみようという、そういうものをしっかりとつくる必要があります。それは観光なり、いろんな受け皿をしっかり整備をして、一度敦賀に寄ろうということをアピールしなくてはならないわけですが、そのこと等を含めて、今、南インターの設置が私どもも実は要望を続けておまして、今のうちに決定をしてやれば手戻りになりません。要するにまだあの部分はできていまして、いろんなボックスを入れたりする作業で手戻りにならない状況でつくれますし、国のほうに対しましても実際、北陸自動車道につながりますが、結局、舞鶴若狭自動車道の敦賀のインターというのが今のままでいくとなくなってしまうんです。もちろん美浜からもそう遠くありませんから市街地に入る分にはいいんですが、やはり敦賀のインター、要するに舞鶴若狭自動車道のインターというものをしっかりつくって、そういうところからここだと敦賀におりれるなということでもありますので、そういう意味ではインターをつくるということも非常に重要だというふうに認識をして、今努力をしている真っ最中でありまして。

【記者】 それに関しては、例えば見通しといいますか、そういうものがどういうふう手順として進んでいくのかちょっとよくわからないんですけども、その辺については感触でも結構ですが。

【市長】 これは国土交通省にお願いをしています。そして先ほど言いましたいろんなことなど、こちらも理論武装しながら国土交通省のほうに要望しておりますけれども、かなりそうだなということは言っていたと思いますし、こんなことあってはなりません、やはり私ども多くの原子力発電所の立地地域であります。万々々々が一のときに、やはり

そういうものがあることによっていろんな、特にあそこは粟野地区になりますから、あの地区というのは、ご承知のとおり2万人を超す大所帯の地区でありますし、そこから非常に近いということがあれば、そういうインターがまたいろんな防災面にも活用できますから、その辺も含めて実は国のほうにお願いをしまして、私は見直しは明るいというふうに自分では思っています。

【記者】 今年核燃料税の見直しが行われるということなんですけれども、核燃料税の見直しについては、市長どういふふうに変わればいいのかお考えはありますか。

【市長】 今、確かに12%ですから、これはアップを県当局にもしっかりと要望を実はいたしております、ぜひ。それと嶺南地方の広域行政組合なども財源としていただいているんですけれども、今、嶺南連携枠という形でその分を使わせていただいているんですが、もっとフリーに嶺南地域の発展のためにいろいろと使える財源にしてほしいということなども含めて要望をしております、知事に対していろいろと要望は繰り返しておりますので、ちょうど今年の10月になるというように思いますけれども、そのときには見直しについて前向きにとらえていただいているというふうに認識をいたしております。

【記者】 ちょっと港の話が出たので。去年の11月からコンテナ船が減便になっているんですけれども、まず、この影響についてどう見ていらっしゃるのかということと、それと拠点港に向けての取り組みというところで、やっぱり便数を増やしていかなければいけない中で減っているわけですね。そこについてはどうお感じになっていますか。

【市長】 確かに便数が多いことによって利便性がありますので、そういう点では残念なんですけれども、例のRORO船のほうが非常に顕著にコンテナ数が伸びておりまして、RORO船とコンテナ船の違いというのは、特にRORO船の場合は釜山直行便であります。それとスピードが速いということ。ただ、やはり料金が高いと。これは特急列車に乗って大阪へ行くのと普通列車で大阪へ行くのとの違いみたいなものだというふうに私は思っているんですけれども。そういう意味で、コンテナ数は確実に今までの過去最高を突破する勢いなんですけれども、要するにお客さんのニーズが今特急に乗っていく便が多いと思うんです。そういう面で少し時間はかかってもという荷物が少し減っているの、こういうような状況にはなっておりますけれども、ぜひまたそういう枠を増やして、そういうお客様の確保することによって増便は可能だというふうに思っておりますので、今後ともしっかりと集荷ができる体制。これは私は別会社のターミナル株式会社の社長でもありませんので、そっちの方面から働きかけをし、また行政の立場でも県と一体となってしっかりと働きかけをし、増便にまたつなげていきたい、このように思っております。

それと、やはり何といたしても中国航路の復活というのが一番大きな鍵を握るといふふうに思いますので、これもあわせて今後しっかりと努力していきたいと思っています。

【記者】 それで、要はもともと中国航路を何とかして獲得しようというのが最大の目的です。週5便あった韓国航路が4便になって、そっちもやらないといけないし、こっちもやらないといけないという、どうしても二兎を追うものじゃないですけども、どっちもどっちつかずになっちゃう可能性だってあるように感じるんですが、それはやっぱり韓国便も増やしながら中国便の獲得を狙っていくということなんです。それともやっぱりまず減った1便を何とかこちに持ってくるようにという、何かそこら辺の順番みたいなものはどうなんですか。

【市長】 これは同時にやれることだと思います。これは二兎を追うというような構造ではなくて、中国航路は中国航路としての新しいいろんな荷主なりそういうことをしっかりと確保すればできることであります。特に釜山航路につきましては、やはりあそこはトランシップ、日本も何とか日本でハブ港をつくらうということで動いておりますけれども、現在ではどう見ましてもまだ釜山のハブ機能というのは大きなものがありますので、そこを通じて世界各国いろんなところへ荷物が流れるということもあります。

ただ、中国の何とかしたいのは、やはり直行便という思いも。これは具体的にはまだはっきりは言えませんけれども、いろんな製品が中国に向けて多く出るものがありまして、そういうものをしっかりとこらでつかんでいくように今やっていますので、もうちょっとしますと、またそういうことも正式に発表ができるんじゃないかなというふうに期待もいたしております。

中国航路が云々じゃなくて、中国航路に向けたという微妙なんですけれども、まだちょっとはっきり言えないもので、そういうものを発表できたときには、ああこれがそれに

つながるなということがわかっていただけるんじゃないかなと思います。口がすぐ滑りやすいので、なるべく滑らないようにしておきます。

【広報広聴課長】 ほかにありますか。

ないようでございますので、今回、1月の定例記者会見はこれにて終了させていただきます。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時00分 終了